

令和8年度 熊本県青少年育成県民会議 記念講演

令和8年(2026年)5月25日(月)15:00~

演題:「子どもとの“ちょうどいい距離”の話

—健やかな性を育む関わりのヒント—

講師:熊本大学大学院人文科学研究部 高岸 幸弘 氏

### 講演の概要

私は熊本で研究や教育に携わる中で、子どもの育ちを真剣に考える大人たちと多く出会い、この地域に特別な思いを抱くようになった。だからこそ、今日は「子どもとのちょうどいい距離」について、私自身が大切だと考えていることを率直に伝えたい。

「性教育」というと特別な知識を教える場だと思われがちだが、私はむしろ、日常の関わりの中で大人がどのように距離を調整し、子どもが安心できる環境をつくるかが最も重要だと考えている。人は本来、他者との距離に敏感な生き物であり、距離が乱れると不安を感じる。これはデジタル時代の子どもにも当てはまる。ネットの危険性を理解していても、身体感覚としては“友達に見せているだけ”という距離感で行動してしまう。そのズレがトラブルを生む。

距離感は成長とともに育つ。幼い頃は近づかれても平気だった子どもが、成長すると自然に距離を取るようになる。これは自分を守る力が育っている証拠だ。私は支援の現場でも、この「自分を守る感覚」を育てることを最も大切にしている。また、同意は言葉だけでは成立しない。拒みたい気持ちがあっても状況によっては「いいよ」と言わざるを得ないことがあるため、同意が言葉だけでは成立しない場合があることを知る機会が必要だ。

大人が焦りや不安に駆られて無理に距離を詰めすぎると、子どもは心を閉ざしてしまう。逆に、自然な距離を保ちながら雑談を交えると、子どもは安心して自分から話し始める。無理に距離を縮める必要はない。大人自身が自然体でいられる関わり方こそが信頼を生む。

私は、子どもとの距離は「近ければ良い」「離れるのは悪い」といった単純なものではないと思っている。日常の小さな調整の積み重ねが、子どもの安心感や自分を守る力、そして性に関する健全な感覚を育てる。子どもが困ったときに「助けて」と言える関係は、こうした日々の“ちょうどいい距離”の中で育まれていくのだ。

#### 【講師 高岸幸弘氏 プロフィール】

・児童福祉施設や小中学校におけるスクールカウンセラーとしてご活躍されながら、子どもの性的行動の問題に関する支援に従事されている。約20年にわたり、性的行動を中心とした、子どもや青年のさまざまな心理的困難について、地域とのつながりやその回復を重視した支援の研究と実践に取り組まれている。